

## 「扉ではなく、城壁のようになる」 (MWB20251118 宝)

(シュラムの乙女に関するソロモンの歌から何を学べるか)

シュラムの乙女に関するソロモン王の失恋の歌は私たちに、貞潔さを保つ方法やその大切さを教えてくれる。でもそれだけではない。この歌から、どんな知恵や力や祝福を受けることができるか？

まず兄たちはシュラムの乙女に貞潔さを保ってほしいと思っていた。どうして分かる？

(ソロ 8:8) 兄たちは自分たちの妹の幸福な結婚を願っていたから ⇒ また、どのように表現？

(ソロ 8:9) 兄たちは妹を称賛することも述べていたとはいえ、その貞潔さについて確信していた訳でない。

「回転扉のように誰彼構わず恋愛感情を抱くようだったら、杉の厚板でふさいでしまうように保護したい」と表明していたから。⇒では乙女は貞潔さをどのように示した？

シュラムの乙女は不道德の誘惑をきっぱり退けた

シュラムのこの若い女性は、王から物質的な誘惑を受けても自分自身のぶどう園に満足し、愛する人への愛情において忠節を保った。(ソロ 8:10)

彼女は誇りをもって、「私は城壁、乳房は塔のようです。」と言うことができました。彼女は、不道德な圧力がかかると容易に「開いてしまう」、「回転扉」や「自在戸」のようではなかった。彼女は道徳的に言って、近づき難い塔のある要塞のようだった。よじ登ることが不可能な城壁のように立っていて、「清い者」と呼ばれるに値した。それでその乙女は自分の夫となる人について、「晴れやかな気持ちである人の前にいます。」と述べることができた。

彼女自身の思いの平和は、二人の間に満足感を生み出すことに役立った。

乙女は自分の貞潔によって不道德の悲惨な結果を避けられただけでなく、晴れやかな気持ちになれた

それではシュラムの乙女はどんな点で、若い人たちの良い模範だったか？

この若い女性は、恋愛において物事を冷静に考える必要があることを知っていた。それは、エルサレムの女性たちに「私の愛を無理に呼び起こさないと、誓って欲しい」と何度も要求したことからも明らか。シュラムの乙女は、感情が理性を曇らせやすいことを知っていた。例えば、自分にふさわしくない人からの誘いを受け入れるよう、周りから強く勧められる場合があることも、自分の感情そのものも、判断力を鈍らせる可能性があること知っていて、それゆえ「城壁」のようであり続けた。

若い人たちも感情だけでなく理性の声に耳を傾けることができるか？時には、まだ自分の状況が整っていないのに、周りから交際をするように強く勧められたり、自分で自分を駆り立てることさえあるか？

恋愛に関してしっかりした見方を持っていたこの若い女性は、若い人たちの素晴らしい模範を示した。

会衆の独身の兄弟姉妹たちもこの点で若い人たちの良い模範となってきた。素晴らしいこと

それでも資料にあるとおり、「会衆の独身の兄弟姉妹が扉ではなく城壁のようであり続けるために、どんなことができるだろうか？」と考えてみるのは良いこと

<画像>①例えば、今回の宝の講話の主題が乙女の兄たちの言葉から取られ、兄たちの存在が強調されていることから、もしかすると何が学べる？私たちにも乙女の兄たちのような思いやり深い仲間、特に長老たちが居てくださる。良い感化を受ければ、恋愛だけでなく宣教等のしっかりした考え方を身に着けて、城壁のようであり続けるように助けられる。②他にも身近にできることあるか？</画像>ではエホバからの知恵や力により今できることを行い、エホバからの永遠の祝福に与かっていく